



登校拒否の『保健室登校』をめぐって

養護教諭の役割が「身体のケア」から「心のケア」へと徐々にその重点を移しつつあります。その大きな原因のひとつとして、登校拒否をはじめとする、子どもを取りまく心理的諸問題の増加・深刻化があげられます。特に、登校拒否児童生徒への指導の一環として、登校できても教室には入れない子どもたちを対象に、保健室登校をおこなう場合が増加しています。

ここでは、保健室登校の意義と留意点について述べてみたいと思います。

周知のように、養護教諭は他の教師と異なり、「子どもたちへの評価」から自由な立場にあります。この特性が、登校拒否の子どもたちの保健室登校を可能にする大きな要因となっています。すなわち、学校の中で保健室が、きびしい評価のまなざしのない安全な居場所となりうるのです。言い換えるならば、学校の中で数少ない母性的機能を持つ保健室が、カウンセリングルームとしての役割を担い、登校拒否の子どもたちの受け皿となりうるのです。実際、保健室登校を経て、無理なく教室への登校に移行した事例は多く報告されており、保健室登校の意義はきわめて高いものといえます。

しかしながら、保健室登校の具体的方法については、十分な共通理解が得られているとはいえ、現実には様々な問題をはらんでいます。

以下、保健室登校の留意点を列挙しておきま

しょう。

〈心構え・態度〉

1. 保健室登校であってもイニシアチブは担任・学年がとることを自覚し、養護教諭への預けっぱなし、すなわち「委託」にならないようにする。
2. 養護教諭による抱え込みを避ける。関係職員との「連携」を重視する視点を明確にする。
3. あくまで子どもを中心に考え、指導をめぐっての教師間の感情的対立を避ける。

〈方法〉

1. 関係職員と事前に話し合っておく。特に、担任と養護教諭は、共通理解を得るまで十分な打ち合わせをする。
2. 十分な話し合いの上、保健室登校の原案は、担任・学年から職員会に提出し、担任・学年と養護教諭の関係や役割や機能を明確にする。
3. 職員会・学年会・学年打ち合わせ等、折りにふれ、保健室登校の子どもたちの様子を知らせ、協力体制づくりを促進する。
4. 保健室のみにこだわらず、時には場の移動も考え、利用できる部屋等を関係職員との共通理解のもと活用する。
5. 専門機関・相談機関との連携を密にする。

教育相談の基礎 一登校拒否の最近の傾向一

かつて登校拒否と言え、登校を巡る葛藤や不安にさいなまれ、そのために家の奥深くにひきこもる、比較的繊細で神経質な子どもたちを中心に論じられてきました。

しかし登校拒否の増加・多様化の中で、そのイメージは徐々に変化してきています。最近増加が目立つのは、登校へのこだわりや外出への抵抗の少ない、いわゆる「学校嫌い」の傾向の強い子どもたちの増加です。

彼らの特徴は、学校との「絆」がきわめて弱くもろいことです。すなわち、友だちとの絆、教師との絆、学習との絆、部活との絆等、様々な面で学校との接点が見いだしにくい子どもたちといえるのです。

このような子どもたちにどのように対応していくのか、これからの学校に課せられた大きな課題と言っても過言ではありません。我々教師は、子どもたちにとって魅力のある学校づくりをめざして今以上の努力を重ね、「子どもたちと学校との絆」を太く確固たるものにしていく必要があるのです。

教育センターだより

第97号

金沢市教育センター

発行者 菅波稔之

H 4. 1. 17

金沢市武蔵町14番31号



「そだちの会」の声

「子どもが登校を渋るので学校へ相談に行ったところ、『知能指数が足りんのじゃないのか』と話されている先生方の心無い言葉に、とても空しい思いをしました。」

これは「そだちの会」でのある親の声です。

登校拒否児の親たちに、日頃の悩みや苦しみを自由に話し合っただき、登校拒否への理解を深めると共に、少しでも日々の生活に役立つ手がかりを得ることを願って、年に数回、「そだちの会」を開いています。

11月は、長い登校拒否から完全復帰をした子の母親たちを中心に話し合いをしました。

- 「最初の頃は、先生方もなんとか登校させようと思われてか、首に縄をつけてでも引っ張って来ればいいとか、いつまでも甘えているからだ、と言われ、毎日が私にとっては地獄でした。」
- 「担任が家庭訪問をされた時、子どもが暴れてバタバタになった部屋を見て、『とても学校へ来いとは言えないね』と言って帰られました。その後もしばしば訪問されましたが、子どもは一度も会おうとはしませんでした。でも、みえ

られないと、『今日、先生来なかったね』と訪問を心待ちしているようでした。」

- 「センターへ行ったら学校復帰が遅れるのではと反対でしたが、友だちと悩みを打ち明けたり、友だちの登校に刺激されたりなど、再登校につながったように思います。」
- 「再登校できたのは、友だちと担任のおかげだと思います。毎日来てくれる友達から、座席のこと、げた箱のこと、勉強のことなど、親身になって教えてもらいました。また、担任にも、その日の為のグループを作ってくださいなど、温かい気配りをしていただきました。『担任の先生、ぼくのことをわかってくれているみたい』と言うようになりました。」

これはほんの一部です。ときには、学校やセンターに対する批判もあり、私たちから見れば、中には親子関係や夫婦関係など、もっと変わってほしいと思う面もありますが、家庭と学校やセンターとの連携をスムーズにするには、何よりもまず、親の訴えに冷静に耳を傾けることからスタートすべきではないかと思います。



調理実習(長町研修館)

研修も終盤を迎えて！

今年度の視聴覚関係研修会（16講座41日間）も指導者養成講座2日を残すだけとなりました。この間に当センターで研修された方は、のべ人数で637人となりました。

研修の中心はパソコンでしたが、ビデオ関係

や英語・OHP・16ミリ等にも多くの先生方に受講していただきました。

それらの研修の際ご協力いただいたアンケートの集計も最後に近づいたため、結果を報告いたします。

研修会アンケートと結果（回答をいただいた数で集計）

年齢（20～29才 28人 30～39才 104人 40～49才 44人 50～59才 12人）
性別（男 36人 女 100人）
校種（幼・保育園 2人 小学校 144人 中学校 42人）

1. 講習の期日はどうでしたか。
（これでよい 116人 特に気にならない 62人 時期が悪い 10人）
2. 日程はどうでしたか。
（長い 16人 ちょうどいい 145人 短い 27人）
3. 内容はどうでしたか。
（難しかった 38人 ちょうど良かった 130人 やさしかった 25人）
4. 会場や設備はどうでしたか。
（良かった 177人 不満な点があった 11人）
5. その他お気づきの点がありましたら記入をお願いします。
6. 今回の研修会以外にも、受けてみたい講座や、センターで実施してほしい講座がありましたら記入をお願いします。

上記の結果から、参加者の年齢・性別・校種の傾向をつかむことができます。また、項目5、6の自由記述の結果をまとめたところ、次のような意見をいただくことができました。

- ・研修の過程では、練習や復習の時間を確保してほしい。また、研修後も学校で復習できるようテキストを充実してほしい。
- ・パソコンを一人一台使って研修したい。（初心者の方は二人で一台の方が教えあえてよかったとの意見でした。）
- ・同じ研修会でも個人の能力差が大きい研修会があった。
- ・研修の内容を事前に詳しく知りたかった。
- ・ワープロの研修会を数多く開いてほしい。
- ・教科の学習により密着したパソコン活用の研修会を開いてほしい。
- ・ワープロ、表計算等のソフト活用の研修会を開いてほしい。

・パソコンで教材を作る研修会を開いてほしい。etc・・・

これらの結果から、研修の方法や内容について次の考察を行いました。

- ・先生方の技能が、かなり向上してきているとともに、個人差も大きくなってきている。
- ・希望されている研修内容が多様化してきている。さらに、受講目的も具体的になってきている。

以上のことから、来年度に向けて当センターでの研修も、「少人数で多種多様な研修会」を用意するよう努力したいと思います。また、グループ（小中教研等の部会）ごとのニーズ（具体的な研修内容）に合わせた研修会も準備しておりますので、ぜひご利用下さい。1グループ10～20人程度で利用ソフトや研修内容がある程度決まりましたら、代表の方からセンターに電話でご相談下さい。いつでも受け付けています。

学童保育に映画も一役

～平和町児童館を訪ねて～

空一面を乳白色の雲が包み込み、落葉した裸の樹々に寒々とした思いを感じる初冬の12月3日の午後、市内平和町2丁目にある平和町児童館を訪ねた。

玄関前で建物の写真を撮ろうとしていたところ、自分の背丈よりも長い竹ぼうきを持って、小学校3年生ぐらいのとても優しい顔立ちをした女の子が中から出て来て、落ち葉を掃き清め始めた。思わずそのほほえましい光景に瞬時目を奪われてしまった。

市内の児童館は、そのほとんどが公民館と併設になっているところが多いのだが、ここは市立図書館の分館と併設になっている純粋な子どもたちの「城」である。学校から帰宅した地域の子どもたちは、家族が家に戻るまでここに集まって、協同活動によって交流を深め、また自分の勉強を進めたりして、有意義な時を過ごしている。

原則として毎月第1火曜日が映画鑑賞にあてられていて、当日は『ラーメンてんし』と『タマ&フレンズ3丁目物語』の上映があり、小学生30数名は、愉快的アニメ映画を食い入るように楽しんでた。

この児童館では、映画鑑賞のほか、曜日によっていろんな“クラブ活動”を行い、館長さんを

はじめとして職員の方々やお手伝いに来てくれる学生がその指導にあたってている。手づくりおもちゃ、お絵かき、折り紙、クッキング、習字、天文…などなど、活動の種類多彩なものには驚くばかりである。

また、ときには学校の先生が子どもたちの様子を見に訪れたり、反対に、児童館の活動を広く子どもたちに知らせるために学校にPRを依頼したり、学校との連携もよくなされているなど、地域や学校と児童館とが緊密に関わり合っているのも素晴らしい。

市視聴覚センターの映画フィルムが学童保育活動の一環に多少なりともお役に立っているのをつぶさに見て、しかも「新しい作品が豊富になり、フィルムの搬送サービスも受けられるようになり使いやすくなった」と言う職員の方の言葉に嬉しい気持ちを抱きながら、冷たい雨が降り始め夕闇がせまってきた中を帰路についた。

